

おうみネット

Ohmi Net | ●発行日 / 2018年3月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団



① 20周年記念特集
これからの市民活動を考える

NPOに期待される成果とは何か？

「自分ごと」として関わる「人」を増やし
持続可能な組織と活動をめざして

office musubime 代表 河合将生さん

地域プロデューサーが育つ塾

おうみの市民と企業が

④ ともに Grow



おうみ未来塾

14期生からの声が届きました！



子育て支援

「ふあ・ふあ」守山



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

これからの市民活動を考える

淡海ネットワークセンターは、昨年

四月、設立二十周年を迎えました。これまでの二十年を振り返り、そしてこれからの市民活動のあり方を皆さまとともに考え、新しくスタートしていくために、本誌では二十周年記念として、「これからの市民活動を考える」をテーマにした特集を四回のシリーズでお届けしています。

今号は最終の第四弾として、「NPOに期待される成果とは何か?」「自分ごと」として関わる「人」を増やし、持続可能な組織と活動をめざして」と題して、NPO組織基盤強化コンサルトant office musubime代表の河合将生さんにご寄稿いただきました。

Vol.4

NPOに期待される成果とは何か?
「自分ごと」として関わる「人」を増やし、
持続可能な組織と活動をめざして

office musubime 代表 河合 将生さん

高まる「成果の見える化」や
「評価」への期待

NPOが地域社会で果たす役割や存在意義など、非営利組織の活動に対して「成果の見える化」や「インパクト(社会の変化)」「評価への期待が高まっています。二〇一六年十二月に休眠預金等活用法が成立するなど、NPOをはじめとする民間公益活動への資金の流れが変わりつつあります。同時に、国際的な潮流として、主に資金の出し手が事業/活動による社会的な価値の「見える化」を求める傾向にあり、日本においても社会的課題の解決に取り組む事業/活動について、社会的な価値を

「見える化」し、民間の資源を呼び込むことで、その事業/活動が成長できる環境を整える必要があるとの認識が広がっています。

NPOは何を「成果」と考えるか

ここで押さえておきたいのは、活動によってすぐあらわれる参加者数などの「結果」や数値化・把握しやすい指標、一つのロジックモデルによって単線的に想定される成果を考えるだけでは十分ではないということです。多様な社会的課題が共存する地域社会において、地域住民にどんな認識や行動の変化をもたらしたか、地域社会の変化のきっかけになったか。非営利組織ならではのミッション・ビジョンに基づく地道な活動や多様な市民の参加、既存の枠組みを超えたチャレンジこそ、

河合 将生 (かわい まさお)

●プロフィール●



▶ office musubime 代表

大学卒業後、国際協力分野のNPOにボランティアスタッフとして参加。その後、NPOの中間支援組織の職員を経て独立。伴走支援を専門としながら組織/事業の立ち上げや組織診断・評価、マネジメント・ファンドレイジング支援、プロジェクト運営・協働コーディネート・ファシリテート等に取り組む。大学の非常勤講師としてNPO論やボランティア論などの担当も。(一財)社会的認証開発推進機構・専務理事、(公財)ひょうごコミュニティ財団・理事など。日本評価学会認定評価士、日本ファンドレイジング協会関西チャプター共同代表/認定講師。

成果として「見える化」されて発信され、多くの市民に共有されるものでなければならぬと思います。最近、「コレクティブ・インパクト」という言葉も「社会的インパクト評価」と同様に、NPOの活動の成果や評価を考える上でキーワードとなっております。異なるセクターにおける様々な主体(行政、企業、NPO、財団など)が、共通のゴールを掲げ、お互いの強みを出し合いながら社会課題の解決を目指すアプローチ」と定義されます(出典:P u b l i c O ジ ョ ー ナ ル あらためて「コレクティブ・インパクト」とは?)。単純な社会的課題は一組織によって解決が可能か

もしれませんが、複雑化・相互依存化した社会では、単独の組織や個人による取り組みだけでは限界があり、まさに多様な関係者が共通の目的のもと集まり、めざすビジョンと成果、それぞれのアプローチ方法や指標・目標を共有しながら、社会的課題の根本解決に向けて経営資源を集中的に投下することで、社会変革を起こすことができます。

滋賀県内における取り組み

こうした社会的な潮流は滋賀県においてもその事例を見ることが出来ます。東近江市役所が、地域の活性化に役立つコミュニティビジネスへの出資を市民に呼び掛けた「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)」の導入もその一つと言えます。



▲東近江市 SIB の一コマ

この元となる考え方は「社会的インパクト投資」と言われ、課題の

解決と経済的リターンの両方を狙う手法です。民間の力を借りて資金を集め、行政コストを抑えつつ課題を解決する仕組みとして期待されています。東近江市では、行政コストの削減ではなく、市民のあたたかい投資がNPO等の事業のスタートを支え、一定の成果が出れば、行政が交付金を支払う「成果報酬型」の仕組みとし、その事業が地域にどんな成果をもたらしたかを重視する「補助金改革型」の仕組みであると説明しています。出資を通して市民が事業を「自分ごと/当事者化」して応援し、成果が出れば償還されるとい

うお金の流れが、人と人がつながり、応援や期待、感謝が連鎖する流れも生み出しているといえます。日本初のチャレンジに行政職員も市民もワクワクしながら「自分ごと」として考え、取り組んだそうです。

担い手の育成

仕組みや制度があれば、NPOも効果的に資金を得て活動を展開し、

社会的課題が解決されるかと言えばまだまだ難しいのが実情です。NPO自身が地域社会の人口動態の変化や社会動向にアンテナをはり、その中で自団体がどういった役割を果たすべきかを他団体と比較したり、組織診断・評価を行って客観的に把握

したり、単年度だけを考えるのではなく、中長期的な視点で計画をたて、人材を確保・育成しながら継続的な実施と成果を積み重ね、ファンドレイジングに取り組んでいくことが求められています。

NPOに必要な資源は7つあると考えています。いわゆる「ヒト」「モノ」「カネ」に加えて、「共感」「時間」「情報・ノウハウ」「ネットワーク」です。これらをうまく集めることのできる団体は、多くの人の参加（時間の寄付）と共感を集めることにより、結果的にボランティア参加が多くなったり、寄付が増えたりしています。ファンドレイジングは資金調達だけでなく、「ファン度を上げる」と言い換ええられたりするように、活動やその担い手、団体のファンに

なる人が増えることで、より効果的に活動を展開することにつながったり、組織基盤強化にもつながったりします。

組織基盤強化への取り組み

『おうみネット一〇四号』の特集でも指摘されているように、NPOがボランティアの参加の機会であるとともに、それを仕事とする人も増え、持続的に組織運営と活動の展開がなされるためには、組織基盤強化が欠かせません。7つの資源のうち、特に「ヒト」はNPOとして最大の資源であり、その強化が組織基盤強化や事業運営に直結します。『おうみネット一〇二号、一〇三号』の特集でも触れられているように、多様な主体との共働／協働には「対話」が必要であり、その対話を行ったり、地域自治組織など、地域社会にアプローチするのも「ヒト」です。私自身も、組織基盤強化の伴走支援を専門に行うものとして、この「ヒト」に対する支援が仕事の殆どを占めるといっても

過言ではありません。

代表や事務局長、担当者の相談相手になったり対話を通して考えを整理したりして後押しするほか、団体のミッションを再確認したり、めざす姿であるビジョンをつくったり、ビジョン達成に向けた中期計画を作成したりしますが、団体の代表や事務局長など、一部の人が行えば良いのではなく、多様な関係者（組織内外の）が一緒に取り組むことをお勧めしています。結果、組織の現状について関係者の共通認識をもつ機会になり、どこが強みでどこが強化が必要なかを把握することになったり、もともとの原点を再確認したり、関係者や支援者があらためて課題や取り組みを「自分ごと化」し、結束と参加促進にもつながります。

社会的課題と活動に光を当てる

組織基盤強化の必要性は理解するがその余裕がないという団体こそ、助成金活用をうまくしてほしいと思います。助成金は、今の活動のため

だけでなく将来の活動の成長や組織基盤強化のため、そしてその活動や組織を多くの人に知ってもらう「知られざる課題に光を当てる」効果もあります。各種表彰も同様です。表彰を受けることで、市民をはじめ、潜在的支援者が知る機会となった

り、内部の関係者のモチベーションアップの機会にもなったりします。

助成金や表彰に応募して機会創出をうまく行っていくことは、組織の持続性を高めることにもつながります。まだまだそうした期待にきちんと応えることができる団体は多くないのが現状かもしれません。しかし、それは悲観することではなく、むしろそうした期待にどう応えていくか、プロセスの中に多様な人の参加と「自分ごと化」があり、着実な組織基盤強化の取り組みがあります。その歩みそのものが「成果」であり、そうした挑戦を続ける団体、ひいては担い手や「自分ごと」として応援する市民」が多くいることが、「地域社会にとつての魅力であり、将来の成果につながる」のではないのでしょうか。

地域における アートの実践

おうみ未来塾11期生
里山腹八分目
川本 哲慎(かわもと あきのり)



私は2007年から毎年5月のゴールデンウィークに芸術作家と共に野外で美術作品の制作や展示をして、その作品と環境が織りなす空間を鑑賞する「野外美術の展覧会」を開催してきました。

初めは自然豊かな環境で作品を作りたいと思っていましたが、ひょんなことから実家であるお寺の独特な環境も悪くないのではないかと思うようになり、手始めとしてお寺を第1回の会場としました。

ところが、予想に反して多くの来場者とメディアの反響があり、「子ども達の遊び場として、大人達の集会場として賑わっていた」と昔前のお寺の風景を見ているようだ」という声や、参加してくれたアーティストの方々から「海外の村でアートイベントした時のような心温まる懐かしさをここでも感じた」という声を聞き、お寺の持っている地域性や寛容性の高さを改めて感じる機会となりました。その後、名称を「おてらハプン！」と改め、おうみ未来塾で学んだことを生かし、作品展示だけでなく地域の素材を用いたワークショップやパフォーマンスなど来場者と共に新しい作品制作や表現を行いました。この方法によって、地域の大人達はもちろん子ども達もアートに関わりやすくなり、会期中に毎日遊びにきたり、準備期間中にも顔を出すようになりました。

そんな「おてらハプン！」に関わっていた子ども達の中には、当時幼稚園に行っていた子どもが高校受験を考える年になり、またワークショップに参加していた子どもが高校生になりボランティアスタッフとして自ら活動したりと、子ども達の成長に少なからず関わることができたことに喜びを感じています。

「おてらハプン！」は、一つの世代が大人になる10年をもって幕を閉じることとなりました。この活動は多くの人の心にアートの種を蒔き、同時にお寺という地域の身近な空間をより面白くするというコミュニティの本質を、地域全体で考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

ともに Grow

県内で活躍するNPOや
社会貢献企業を
レポート！

市民 ● 子育て支援

2017年度 笑顔あふれるコープしが基金助成団体

「ふあ・ふあ」守山



▲みんなでほっこり

代表●大西香代(おおにし かよ)
設立●2011年3月
会員数●25名
連絡先●守山市守山1丁目
TEL: 077-582-6335

あたたかい場の提供をとおして、 みんなが力を発揮できる場所をつくる

守山市街中心地域では、マンションや新興住宅が急増。そこに暮らす若い親たちが地域と切り離され、孤独と緊張感を抱えながら子どもを育てる姿が見受けられます。そんな親子が気軽に参加でき、「ふあ・ふあ」としたぬくもりのひと時を過ごし、交流を深めながら親子で成長していける場の提供を目的に「ふあ・ふあ」守山は二〇一一年に発足しました。

代表の大西香代さんは、今なお参加者が増え続け、人気のイベントには開催時刻前から行列ができるほどの盛況ぶりであることについて、楽しそうに語ってくださいました。

スタッフは全体で二十五名。高齢や他団体活動との併走等それぞれに事情はありますが、それを尊重し、できる時にできることを快くやってもらえる環境が多く参加を促しているようです。楽しい目標を設定し、各々が得意なことを実施することで、不思議に役割も埋まり、気づくと多くの人が楽しくイ



▲アロマでほっこりハンドマッサージ

ベントの運営をサポートしています。スタッフの半数が男性ということも強みで、イベント準備でも頼もしく、夫婦参加が基本にあることが男性増加につながっているようです。

本年一月十日のイベント「アロマでほっこりハンドマッサージ」には三十組を超える親子が参加。この日はママのために提供するスタッフの本格的なマッサージや手相診断に、順番を待ちながらいくつもの交流が練り広げられていました。六年前、大西さんから駅で声をかけられたことをきっかけに参加したママは、「ここに来たい想いで子どもが三人になりました！」と、最近ではイベント企画も担いながら参加していました。

「私は何にもやっていないのよ。みんなが自主的にやってくれるから」と大西さんが話す、その言葉がすべてを表しています。あたたかい場を提供し、個々の素晴らしさを愛し、自信をもってお任せする、その大きなゆりかごのような「ふあ・ふあ」感が緊張感を解き、みんなが力を発揮できます。それを見失わない活動だからこそ、人気と継続につながっているのだと会場全体に広がるハートが教えてくれました。

20th Anniversary

おうみ未来塾

地域プロデューサーが育つ塾



▲おうみ未来塾 14 期生「ウッド・ビー・ビー (WOOD-BB)」の皆さん

おうみ未来塾とは？！

市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組み人が求められています。おうみ未来塾はこうした課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

基礎実践コースでは、実践をふまえながら主体的に塾づくりに参加し、創造実践コースでは、グループ活動を通して地域の課題を政策化し実践していきます。

基礎実践から創造実践へ、地域を見据えフィールドを持ち、自ら育っていく感動の中で大きく成長できる「おうみ未来塾」へ、ぜひあなたも入塾しませんか？

地域の課題を発見し、解決のために熱意を持って参加された十四期生の中で結成された「ウッド・ビー・ビーグループ」の感想が届きましたので、ご紹介します。

おうみ未来塾 14 期生 ウッド・ビー・ビーグループの 活動概略

- グループ名:ウッド・ビー・ビー (WOOD-BB)
- 活動テーマ:森・生き・生き・本き高時
- 活動エリア:長浜市木之本町高時地区
- メンバー:池田金夫(長浜市)、岡義子(長浜市)、北川達也(大津市)、武村純一(宇治市)、田中啓介(甲賀市)、谷剛(大津市) 6名
- 活動内容:
 - ①間伐材を加工し、簡単に組み立てられる復興支援用小規模建物建材(ウッドビルドブロック)の製造、その事業化
 - ②継続的な森林維持管理を可能にする林道の整備



岡 義子さん(長浜市)

仲間と協力して1つのことを成し遂げた思い出

おうみ未来塾では、いろいろな人との出会いを通じて多くの学びを得ました。50年以上関わってきた仕事とは全く違う分野に接するのは新鮮な経験でした。

私にとって、長い人生の中で一番充実した1年半であったと思います。ことにグループ活動では、年齢も職種も違った6人のメンバーが、協力して一つのことを成し遂げたことは素晴らしいことです。一生継続く友人を得たことに感謝します。



池田 金夫さん(長浜市) グループリーダー

自らのテーマに仲間と取り組み、
目標達成できた!!



▲チェーンソーの練習

WOOD-BB を事業化し 中山間地域に展開したい

北川 達也さん(大津市)

WOOD-BB は放置森林問題の対策として有効であるだけでなく、間伐材の伐採から製材、製品加工の過程で中山間地域に雇用を生み出す活性化事業になり得ると考えています。また作ろうとしている『簡単に組み立てられる復興支援住宅』は被災地支援に繋がる意義あるものだと思いますので、今後も WOOD-BB の活動を続け、何としても事業化・製品化を達成したいです。そして将来的には私の住む仰木にも事業を展開したいと考えています。



▲打ち合わせの様子

“卒塾が出发点である”と私は思っています。これからは、おうみ未来塾での学びを自分の地域のまちづくりに活かしたいと思います。

さらに、今回、私が塾で学んだことを職場の後進に伝えることにより、同じ意識を持った行政マンを数多く育てたいと考えています。

そして、何より、おうみ未来塾で知り合うことができた仲間や地域の方々とのネットワークを絶やさず、困ったことがあればお互いに相談し合い、解決していきたいと思っています。



武村 純一さん(宇治市)

塾での学びを
職場の後進に伝えたい

素晴らしい仲間と 共に挑戦ができた喜び

谷 剛さん(大津市)

福祉分野のNPO 法人の運営を始めて3年目。福祉の狭い枠組みの中に留まらないというポリシーのもと、県内外問わず、おもしろい活動をされている方々とつながろうとしてきました。そのような様々な団体の活動について、「どんなことがきっかけで始めたのか」「活動はどのように立ち上がってきたのか」ということを『実際に自分で行動して学びたい』という気持ちが出てきて、入塾を決意しました。

グループ活動では、素晴らしい仲間を得て、大きな挑戦をすることができました。



7年前、私の地元長浜市木之本町高時地区に地域づくり協議会が発足し、その運営に携わるようになりました。さらに一昨年、長浜市より「地域活力プランナー」の委嘱を受け、それまで以上に積極的に地域づくりに関わらなければならない立場になりました。そこで、地域づくりとは何なのか、地域に活力をもたらすプランナーとは一体何をどうすればよいのかを一から学びたいと思い、おうみ未来塾に入塾しました。今回グループ活動で取り上げたテーマ「森・生き・生き・本き高時」活動をおうみ未来塾のグループ実習として提案したいとの思いも、入塾に際して併せて持っていました。

高時地区は、古くは山岳仏教の聖地として知られる己高山の西麓の静かな山間に点在する5つの字からなり、合わせても人口1200人に満たない小さな地区です。十一面観音の里として近年全国的に知られるようになりました。また鶏足寺で有名な紅葉など里山の自然に恵まれています。そんな歴史文化と自然の豊かなところではありますが、若者は定着せず少子高齢化が進んでいます。何よりかつて盛んであった林業が衰退したことの影響は深刻で、林業に関連する地場産業がほとんど消滅しつつあります。活用されなくなった森林は適切な維持管理がなされないまま放置され、このままでは近い将来地域の大切な森林資源まで失うことになってしまいます。

グループ活動を始めるにあたり、私は入塾時より持っていたテーマ「森・生き・生き・本き高時」を提案し、これに賛同する5人の素晴らしいメンバーが集まりました。短い期間ではありましたが、グループで話し合いを重ね、計画を共有し、目標に向かって知恵と力を出し合ってテーマに取り組みました。ウッドビルドブロックハウスの試作品を完成させるという卒塾時点における取り敢えずの目標を達成することが出来ました。今後も、仲間と共にこの活動を継続し、地域活性化をもたらす事業モデルを創出したいと考えています。

地域と共に歩んでいくために

田中 啓介さん(甲賀市)

地域おこし協力隊として甲賀市へ着任し、現在は地域全体で2万本のひまわりを开花させ、そのひまわりから植物油を採取。地域と共に栽培規模も年々拡大中です。しかし、着任当初は地域との距離があり、“協力隊として地域と共に活動をするためには?”という課題のヒントを得るためおうみ未来塾に入塾しました。仲間と共に、時には地域の人たちと共に思いを一つに地域課題に向き合った一年半は未来塾で最大の収穫です。



▲作業風景

イベント 未来ファンドおうみ2017年度
助成事業成果発表会を開催します

◇日時：5月12日(土)午後
◇会場：滋賀県民交流センター 207会議室(ピアザ淡海2F)
※開始時間等の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

成果発表団体

- おうみNPO活動基金**
○NPO法人とまり木 ○ぼてじゃこトラスト
- びわこ市民活動応援基金**
○夢・びわ湖 ○NPO法人あめんど ○八幡山の景観を良くする会
- びわ湖の日基金**
○南滋賀の里山を守る会
- 積水化成成品基金**
○NPO法人甲賀の環境・里山元気会
- 笑顔あふれるコープしが基金**
○「ふあ・ふあ」守山 ○一般社団法人秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会
- ナカザワNEOフレンドシップ基金**
○彦根にほんご教師会 ○湖南市国際協会
- げんさん食育NPO基金**
○NPO法人滋賀自閉症研究会たんぼぼ ○こころはなまる
- 湖国文学活動応援むらさき基金**
○近江八幡市郷土史会 ○近江八幡読書グループ連絡会
- クラウドファンディング活用基金**
○あいとうふくしモール運営委員会 ○NPO法人結びめ
○ヴォーリス今津郵便局の会

募集 おうみ未来塾第15期塾生募集説明会
あなたも「地域プロデューサー」を目指しませんか！

「おうみ未来塾」は、市民活動やNPOが、地域運営の一翼を担う時代となった今、新しい地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。「地域プロデューサー」とは、地域の問題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業をおこなうことができる人であると考えています。

今回、第15期塾生募集にあたり、説明会を開催しますので、ご参加をお待ちしています！「地域プロデューサー」に興味のある方、地域の課題解決に主体的に取り組みたいとお考えの方、是非ご参加ください！

募集説明会 開催日時・会場

- ▶3月23日(金) 18:30～20:00
守山市民交流センター 1階交流室
- ▶3月25日(日) 10:00～11:30
淡海ネットワークセンター ふらっとルーム
- ▶3月25日(日) 15:00～16:30
今津東コミュニティセンター 会議室2
- ▶3月30日(金) 15:00～16:30
米原市米原公民館 研修室3-B
- ▶3月31日(土) 10:00～11:30
淡海ネットワークセンター ふらっとルーム
- ▶3月31日(土) 15:00～16:30
あいこうか市民活動・ボランティアセンター多目的室

◇参加対象：どなたでも
◇応募期間：3月1日(木)～4月14日(土) 17時までセンター必着
◇応募書類等の詳細は当センターホームページをご覧ください。

お知らせ 関西SDGsプラットフォームが
設立されました

昨年12月16日に関西SDGsプラットフォームが設立されました。このプラットフォームは、SDGsへの取組みが、関西の民間企業、市民社会・NPO/NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関、すべての人々にとって、重要であることを広くアピールするとともに、各ステークホルダーの連携と協働により、関西において持続的社会的構築に向けた活動や高い社会的価値を生み出す経済活動を加速していくことを目的としています。

淡海ネットワークセンターでは、当プラットフォームの目的に賛同し、参加団体として各種活動に参加・協力していくことになりました。

編集後記

今号から「おうみネット」を担当させていただく荒堀と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。時代がめまぐるしく動いている今、行政ニーズが急速に加速し、行政だけでは担いきれないサービスを市民団体やNPO、企業などと協働するという新しい取組みが必要になってきています。「これからの市民活動を考える」を他人事ではなく、自分の事に置き換えて考えていきたいと思えます。

(淡海ネットワークセンター 荒堀 順子)

おうみネット 105

●2018 春号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館日／市民活動ふらっとルーム：火～土曜日
(火～金曜日の祝日は休館)
- 事務所：火～日曜日

●情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)

関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

**市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!**

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約2,000カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!



おたがいさまがつながり、活きる。

未来ファンド **個人の気持ち、企業のCSR**
おうみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、
淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。